

防災施設を視察



村長

つあり、新規住宅開発も考慮に入れ、5千人を目標としていた総合計画を踏まえ、分家住宅新築時の水道管敷設を消火栓設置可能な太さに規定して、分家住宅新設時の一般敷設の太さとの差額を村が全額助成する等できな

A

消火栓設置は関係地区の要望に基づき、設置に伴う工事費の2割を負担していただき、太さ75ミリ以上の水道管に設置しています。既設水道管の口径を消火栓の設置可能な太さである口径75ミリに、敷設替えをする場合、水量を確保するため、循環連結

先である両端の既設水道管が75ミリ以上であることが条件となります。

初期消火に住民皆さんの力をお借りできるよう、消火栓の設置と間隔について、今後近隣市町の状況を見定め、前向きに検討をさせていただきたいと考えています。

また、既設の水道管の口径変更の敷設替え工事の負担は、海部南部水道企業団の水道管敷設替

1月9日、三重県桑名市の「長島防災コミュニケーションセンター」を見学し、説明を受けました。

施設内には多目的室・会議室・研修室・調理室・備蓄倉庫等が完備されています。

太陽光発電設備を導入し、省エネルギー、地球環境保護に貢献しています。また、2階の床高は伊勢湾台風時の浸水位を考慮し、海拔4・4メートルとしています。

施設の概要

構造 鉄骨造2階建
 収容人員 約3百名
 建設予算 約4億6千7百万円
 (建設関連のみ)

飛島村も、村民の「安全・安心」を確保するため検討を重ねています。

簡易トイレ



太陽光発電設備